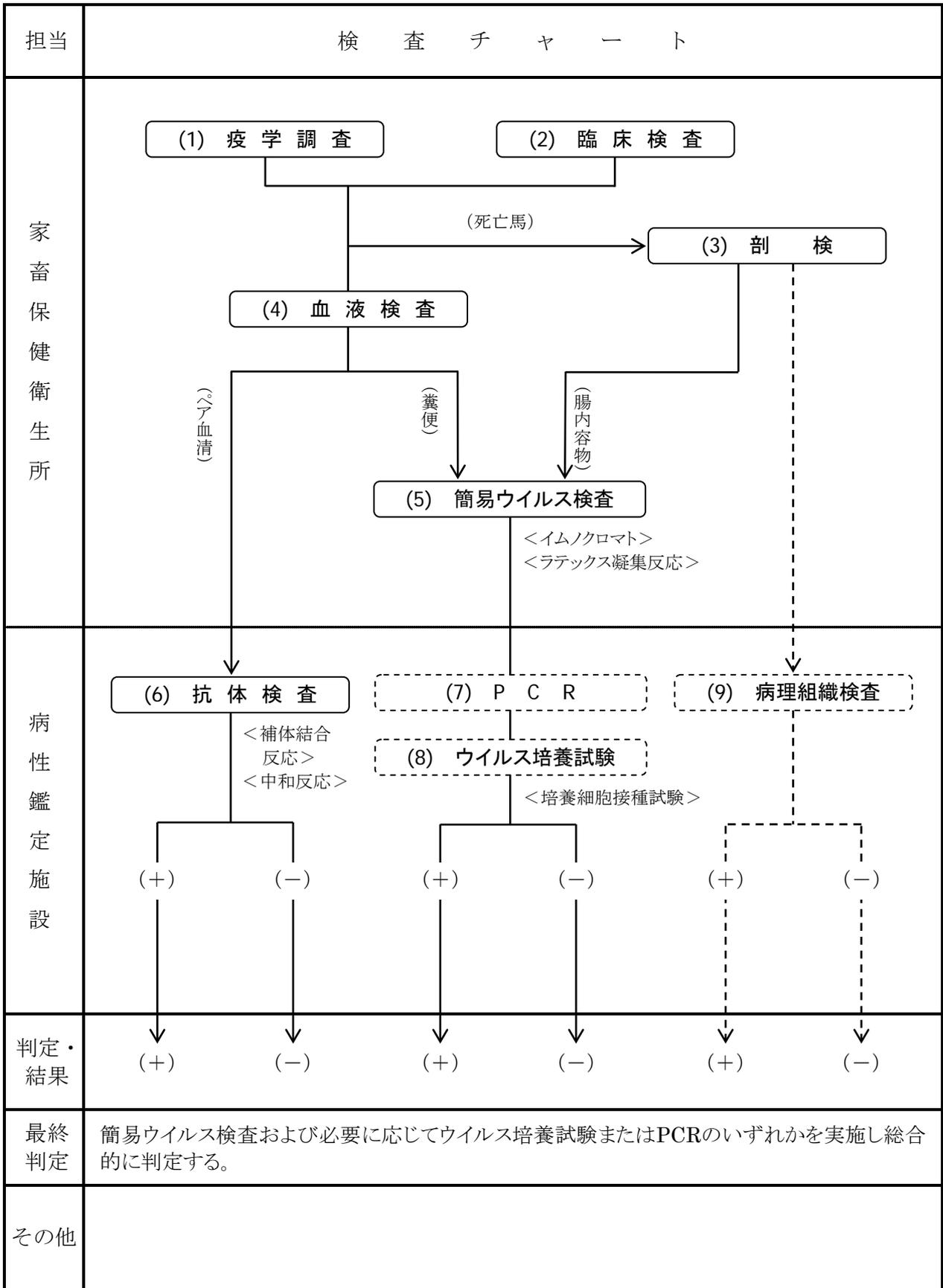


153 馬ロタウイルス病



→類似疾病検査

- ① サルモネラ症 ② クロストリジウム症

○ 病原体:A 群ロタウイルス;Rotavirus A [*Rotavirus A*, *Rotavirus*, *Reoviridae*]

(1) 疫学調査

- ① 集団飼育されている子馬、特に 1~3 ヶ月齢の子馬に下痢が流行的に発生する。  
② 飼育密度の高い畜舎で発生しやすく、伝播性も強い。  
③ 最近馬の移動、導入があった。  
④ 一過性の下痢で回復し、死亡率は低い。

(2) 臨床検査

- ① 黄色水様性下痢(3~4 日の経過で回復)  
② 発熱  
③ 一般症状の悪化

(3) 剖 検

- ① 小腸特に十二指腸、空腸のカタル性変化  
② 大腸における黄白色水様物貯留

(4) 血液検査

- ① 一過性の白血球の減少  
② 血液濃縮、Ht 値上昇

(5) 簡易ウイルス検査(イムノクロマト、ラテックス凝集反応)<sup>1)</sup>

下痢便材料からのラテックス凝集反応またはイムノクロマト法による抗原検出

(6) 抗体検査(補体結合反応、中和反応)

補体結合反応または中和反応  
ペア血清について実施

(7) P C R <sup>2)</sup>

下痢便より RNA を抽出し、RT-PCR を実施

(8) ウイルス培養試験(培養細胞接種試験)

使用細胞:MA-104 細胞

接種材料:トリプシン処理の下痢便、小腸内容物の濾液(乳剤の濾液と 10 $\mu$ g/ml の結晶トリプシン液を等量混合し、37 $^{\circ}$ C で 30 分感作)

培養方法:37 $^{\circ}$ C で回転培養(培養液中に 0.5~1 $\mu$ g/ml の割合でトリプシンを添加)

成績:CPEの確認(CPE(-)の場合は2~3代盲継代)

同定:培養細胞中に特異蛍光を確認

好酸性細胞質内封入体の確認

ラテックス凝集反応またはイムノクロマト法による抗原検出、RT-PCR

(9) 病理組織検査

- ① 小腸絨毛の萎縮、絨毛上皮細胞の立方化、扁平化、剥離  
② 小腸粘膜固有層の単核細胞浸潤

(参考文献)

1) Nemoto, M., et al.: J. Vet. Med. Sci. 72, 1247-1250 (2010).

2) Tsunemitsu, H., et al.: Arch. Virol. 146, 1949-1962 (2001).